

今日は深在性真菌症のお話です。



真菌とはカビのことで、通常は体内に入っても害になることは少ないですが、体力が低下した場合などには異常に増え、健康を損なうことがあります。

● 深在性真菌症とは？

表在性真菌症…皮膚や粘膜など外から見えるところに感染する
 深在性真菌症…肺、肝臓、腎臓、脳といった体の深部など目に見えないところまで感染する



どちらも、移植手術を受けた後や、ステロイドや免疫抑制薬を投与されて免疫力が低下していたり、衛生環境が悪かったりすると、感染するリスクが高まります。診断が遅れた場合は治療がとても難しい病気です。

真菌の種類のうち代表的な物はニューモシスチス・カリニ、イロベチ、カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカスです。今回は、アスペルギルス症についてお話します。

ニューモシスチス カリニ、イロベチ	ヒトの肺の中に生息していますが、健康な人に害はありません。抵抗力の低下した人では発熱・息切れ・乾いた咳の原因となります。
カンジダ	ヒトの口の中、消化管、膣に生息しますが、健康な人に害はありません。
アスペルギルス	環境中に広く存在しています。食品の発酵に使われるコウジカビがこの仲間ですが、一部の毒性の強い菌がアスペルギルス症を引き起こします。
クリプトコッカス	土・ハトの糞などに存在し、かぜ様の症状や肺炎を引き起こします。

● アスペルギルス症とは

アスペルギルス症は最も多い深在性真菌症で、空気中に浮いているカビを吸い込むことにより感染します。肺への感染が一般的です。病態によって、以下のように分類されます。



症状

発熱、胸痛、咳、
 血痰または喀血、
 呼吸困難

侵襲性肺アスペルギルス症
 肺アスペルギローマ
 (慢性壊死性肺アスペルギルス症)



※慢性壊死性肺アスペルギルス症は肺アスペルギローマのうち、薬が効きやすい時期の名称です。

全く自覚症状がないまま肺に感染を起こす例もありますので、免疫力が低下している方は定期的に健康診断や人間ドックを受けましょう。

● 治療

深在性真菌症は早期発見・早期治療が重要です。肺アスペルギローマは原則として手術を行います。肺アスペルギローマで手術ができない場合や侵襲性肺アスペルギルス症と慢性壊死性肺アスペルギルス症では薬による治療を行います。

主な治療薬

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| ◆アゾール系 | ブイフェンド（点滴または飲み薬）
イトリゾール（点滴または飲み薬） |
| ◆ポリエンマクロライド系 | ファンギゾン（点滴）
アムビゾム（点滴） |
| ◆キャンディン系 | ファンガード（点滴） |



● 予防

アスペルギルス属菌は私たちの暮らしている環境中にもいますので、これらの真菌を吸い込まずに生活することはできません。



ただ、吸い込む機会や吸い込むカビの量を減らすことである程度の感染予防になりますので、体力や病気に対する抵抗力が低下しているときには廃屋、屋根裏、地下室、建築現場などの埃やカビの多い場所は可能な限り避けるほうがよいでしょう。どうしてもそのような場所に行かなければならないときはマスク（可能であれば真菌や細菌などを通さない N95 マスク）の着用をお勧めします。

また、観賞用の鉢植えの土、生花やドライフラワーの表面、花瓶の水では真菌が育ちやすいので、免疫力の低下している患者さんの病室には生花の鉢植えなどを持ち込んで良いか、医師に確認しましょう。



<参考>

- ・抗真菌薬使用ガイドライン 日本
- ・治療薬 up to date メディカルレビュー社
- ・メルクマニュアル家庭版

<http://merck.manual.jp/mmhe2j/index.html>